

千葉演習林の概要*

I. 沿革

千葉演習林は、わが国最初の大学演習林として、明治27年(1894)に清澄山林約300haで発足し、明治31年(1898)には、奥山官林、約1,900haを加えて合計約2,200haとなり、現在に至っている。

II. 位置

本演習林は、天津小湊から君津市上総地区にまたがって一団地となり、中央部に民地の四方木盆地を包み、また清澄山付近では、民有地とかなりいり組んでいる。演習林事務所は、国鉄外房線、安房天津駅から徒歩5分位のところにある。

III. 地況

千葉演習林のある房総南部は、一般的には海岸性気候で、温暖多雨である。最寒気の1月～2月の平均気温は、4℃位で割合に暖かく、また、真夏の7月～8月には、平均温度は25℃前後になるが、海からの風があって、しのぎ良い気候である。年間の総雨量は、2,000mmを少し越える程度である。

本演習林の地形は、太平洋岸に近い清澄山地(標高:383m)を分水嶺として、南北に大別されるが、所管の森林は、そこから南に流れる二間川の流域と、北西に向かって東京湾に注ぐ小櫃川の上流域とに分布している。海拔高は100～300mの範囲で、山は低いが地形は複雑で、しかも、相当急峻である。林地全体を構成する地層は、新第三紀海成層で、基岩は、砂岩、礫岩、泥岩からなりたち、非常に風化しやすい性質をもっている。

IV. 林況

太平洋に面する海岸の近くには、天然生のタブやスタジイ、そして、元来は植栽されたものであるが、マテバシイなどの暖帯性照葉樹林が見られる。しかし、内陸の丘陵地では、シイ、カシ類の常緑樹が主体となり、それにコナラ、クリ、サクラなどの落葉性のものが混った広葉樹林が多い。スギ、ヒノキなどの人工林地は、演習林全面積の1/3強を占め、また、天然生のモミ、ツガを上木として、下層には、常緑広葉樹の茂った中林型の林がかなり良く残っている。この地域の植物相は非常に豊富で、自生種は、木本類が、270種以上、草本類が、900種で、そのうち、シダ植物は、160種にも達する。これは、暖帯性植物の北限と、温帯性植物の南限が、重複しているからだといわれている。

* 同演習林の「視察案内」より



天津事務所

V. 試験・研究

千葉演習林は、明治以来、わが国の林業に関する試験・研究の中心的存在となってきた。数多くの試験林が、各所に散在し、演習林および本学に在籍する人達によって、さまざまな調査研究が行われ、その成果は、林学、林産学関係の学術誌に多数報告されている。それらをふりかえってみると、明治年間に最初に始った造林法に関する研究は、そのまま本演習林の伝統として受けつがれ、造林および森林経理の分野の試験、研究が最も多く行われてきたといえる。すなわち、材木の生長、生産構造、収穫表、高林施業、低林施業、間伐、枝打ち、そして材木育種、林地肥培、植付け法、マツノザイセンチュウに対する抵抗性の問題等々である。このうちいくつかのものは、現在も主要な試験研究課題として継続されている。こうした歴史を受け継いで、昭和30年代以降は、造木技術の再検討が大きな課題として取り上げられ、さらに高度の育林技術の開発を目的とした試験研究が行われるようになった。これと平行して、最近では、自然誌や立地生態系に関係した分野の研究調査も、幅広く行われている。消澄作業所構内には、標本館があり、さく葉、木材、木炭などの標本のほか、かずかずの展示がある。演習林内の各所には、見本林、学術参考林がある。その主なものは、天津事務所構内にある亜熱帯植物園、長坂、三本松、速尾、大見山の内玉樹種見本林、前沢のマツ類見本林、柁の沢スギ品種別植栽林、浅間山原生林などである。演習林南部の本沢林道に沿って、一杯水から麻綿原、そして、消澄寺から渠道を下って坂本に至るまでの地域は、千葉演習林森林公園として、道路沿いに約200種の樹木700本にラベルを付け、要所要所には、案内図、道路標識、森林施業の説明板なども設置してあり、自然観察に適している。さらに、全林域のいたるところに130種の老木を保護樹として保存している。消澄山系一帯は房総丘陵に残された自然が最も豊かな地域であるため、南房総国立公園、養老渓谷奥消澄泉立自然公園として、自然保護区域に指定されている。



浅間山原生林



郷台苗畑

天津亜熱帯植物園

天津事務所構内は東西北の三方が山に囲まれ、南方約700 mの近くに太平洋の海岸を控えるため、冬季も温暖で亜熱帯植物の生育に適している。現在亜熱帯地方原産植物（その他の外国種若干を含む）50種および内国樹種50種が植栽されている。

浅間山原生林

浅間山は森林植物帯研究上、暖帯林として好個の見本である、この山は集落の信仰により古来より人為の加えられることなく、明治27年（1894）演習林に編入されてからは禁伐林として保存されたため固有の林相を保ち、カシ、シイの類を主木とし、アセビ、シキミ、サカキ、ヒサカキなどの下木を有し、また峰通りにはモミ、ツガの大木を交え、渓谷に沿う所には、時折モミジ、ケヤキ、アカメガシワ等の落葉広葉樹が混生し、いわゆる常緑広葉樹の典型をなしている。

針 葉 樹		広 葉 樹	
樹 種 名	本 数	樹 種 名	本 数
スギ	200	アカガシ	332
モミ	206	スタジイ	219
カヤ	47	ウラジロガシ	95
ツガ	38	イロハカエデ	33
その他3種	4	サカキ	29
		その他21種	93
計	495	計	801



牛蒡沢生長測定試験地

牛蒡沢生長測定試験地

森林に関する試験は長年月を要するものが多く、また林木に関する各種の試験及び林地に関する試験等は関連することが多い。その基礎資料をつくるため、1916年（大正5年）に林内各所に21ヶ所の生長測定試験地（スギ16、ヒノキ4、クスノキ1）を設定し、5年ごとに毎木の直径と標準木の樹高測定を行っている。

本試験地は、これらに関連して、1940年（昭和15年）に追加設定されたもので、過去に数回の雨水害、雪害などを受けたが、本演習林中で最も優良な林分の一つである。

今澄水源涵養林

この林は、演習林内で桜ヶ尾の老齢林につぐ古い人工林である。植栽は、清澄寺寺領時代の安政6年（1859）に行なわれ、現在、121年生の林分である。演習林に編入後は水源林造成を目的として、枯損木及び被害木以外は伐採を禁止してきたが、昭和2年（1927）に雪害を受けたため、被害木を伐倒し、その跡にヒノキの樹下植栽を行なっている。

今澄水源涵養林の概略は下記の通りである。

	昭和14年調(1939)	昭和28年調(1953)			昭和55年調(1980)		
	スギ上木	スギ上木	モミ	下木ヒノキ	スギ上木	モミ	ヒノキ下木
林 齢 (年生)	80	94	—	25	121	—	52
平均直径 (cm)	36	44	51	7	51	71	9
平均樹高 (m)	21	26	20	6	27	24	6
材 積 (m ³)		633	103	—	934	8.7	—
〃 (ha当り)	735	633	—	—	934		—

桜ヶ尾老齢スギ林

本演習林で最も古い人工林で林齢146年、樹高が30mを越すものが多い。

七曲外国樹種見本林

当演習林初期の1897年（明治30年）に設置され、標高は、200 m～250 mで尾根から中腹にかけて設定されており、沢を上りつめた所にあるため風当たりが強い。現在30種が植栽されているが古いものは1本ないし数本残っているだけのものもある。

長沢・三本松・速尾・大見山内田樹種見本林

これらの大玉樹種見本林は、明治、大正年間（1897～1926）に植栽されたものが大部分で、近年植付のものは少ない。そのため老齢の広葉樹人工林となっており、極めて貴重なものである。

堂沢風致林

本林は、中林の見本であるとともに風致林として保護を加えている。 （1981年調査予定）

東の沢見本林

昭和17年（1942）に欧州との交換によるマツ類の植栽の他、サワラ、ヒノキ、コウヨウゼン、エンビツビャクシン、オオシマザクラなどの樹木が植栽してある。

相の沢スギ品種試験地

熊本、大分、宮崎、京都、長野、千葉、各地方のスギ品種33種を、さし木養苗し、南西斜面に列条に各品種、最大76本、最小17本、計1,380本を昭和6年（1931）4月に植栽した。

	住 所	T E L
天津事務所	千葉県安房郡天津小湊町天津 770	04709-4-0621
清澄作業所	千葉県安房郡天津小湊町清澄 135	04709-4-0585
◇ 宿 舎	◇ ◇	04709-4-1990
札郷作業所	君津市黄和田畑 1,442の1	043939 - 3122
郷台作業所	◇ 折木沢 362	043939 - 3121

東京大学千葉演習林林相図

